第３学年　国語科学習指導案

平成 15 年 11 月 10 日（月）　５校時
３年生　男子４名　女子５名　計９名
指 導 者　　大 谷　朋 子

1　単元名　じゅんじょが分かるように，話したり聞いたりしよう
（教材「道あん内をしよう」光村３年下巻）

2　単元について

(1) 単元の価値

中学年期の児童は，学校生活にも慣れてきており，学習を始めたとした様々な活動を積極的に楽しもうとしている。このような時期の特性をとらえ，日常生活の場の中において話し相手に応じて，順番や組み立ての中心に気をつけて話すことをねらいとしている。また，聞くことについては順番や組み立ての中心を理解し，不明な点は質問したりできることもねらいしている

本学級の子どもたちは，相手に分かるように話したい，すらすらと上手に話したい，様々な方法で自分の考えを伝えたいという考える児童が多い。ゆえに，授業での個人発表やグループ発表などで，積極的に自分の思いや考えを伝えようとしている。しかし，伝えたいという気もちが強いにも関わらず，話したいことを羅列し，聞き手に正しく伝わっていないことが多い。これは自意識が強く，相手の立場に立った話し方ができないことが原因である。つまり，自分の思いや考えとを伝えるということで満足し，自分の話を聞いている他者の存在をあまり意識していないのである。したがって，日頃から，周りの友達に分かりやすく伝えることを意識する学級作りを教師が心がけ，児童自身にも相手が分かるように話せたことがうれしいという気もちを持たせることが大切である。

この時期の児童に対して本単元は重要な意味を持っている。人前で自分の考えや思いを話すことができるようになってきている子どもたちに，「相手に分かるように順序よく話す」ことは発達段階にふさわしい言語能力をつけるために必要だと考える。

これまでに児童たちは，「みんな，子どもだった」では，学校内の先生方の子ども時代についてインタビューする計画を立て，インタビューをする側，話を聞きながらメモをとる側に分かれ，インタビューの練習し，話すときには相手によく分かるように話すこと，聞くときには大事なことを落とさずに聞くことを学習した。

教材「道案内をしよう」では，地域のことをよく知らない人に道案内をしようという課題から，道案内の話し方・聞き方の大切なことを理解し，日常生活に役立てていこうとするものである。この課題について話す側は，地域の地図，目印，迷いやすい場所などを知っているが，聞く側はそれを知らない。そこで，話す側は，相手に分かる情報を与え，現在地から目的地まで行けるように，進む順序が分かるように話さなければならない。また，聞く側は分からないところ，聞き逃したところは質問して確かめる必要がある。

本単元では，このような学習活動を通して，相手や目的に応じながら，筋道を立てて話すこと，話の中心に気をつけて聞くこと，また進んで話し合おうとする態度を育てたい。

(2) 伝え合う力を高めるための５つの言語意識について

５つの言語意識	本単元で高められる伝え合う力の基礎
相手	相手の持っている知識や情報を確認しながら，相手に応じた適切な言葉遣いができる。
目的	現在地や目的地，目的地までの道順，目印になるもの，曲がるときの方向などの大事なことを明確に伝える。
場	道案内を頼まれた場合を想定して，一対一で説明することができる。
方法	相手に内容を分かりやすく伝えるために，大事な言葉の話し方，速さ，間の取り方を考える。 分からないところ，聞き逃したところは，繰り返し質問する。
評価	自分の道案内が相手に伝わっているか，言葉遣いが適切であるかを自己評価できる。

(3) 単元の系統

話すこと・聞くこと	他教科との関連

【第２学年】

6月　「ともこさんはどこかな」
○迷子の特徴となる大事なことを学び，順序よく話すこと，および，その特徴を聞き落とさないように，注意して聞く。

9月　「あったらいいな，こんなもの」
○理由や話す順序を考えながら，聞き手に分かるように話す。

【第３学年】

6月　「名前をつけよう」
○人の考え自分の考えの相違点や共通点について，その理由に気をつけながら話し合う。

10月　「みんな，こどもだった」
○インタビューで尋ねたいことを決め，相手に分かるように適切な言葉遣いで話し，大事なことに気をつけて聞く。

11月　じゅんじょが分かるように，話したり聞いたりしよう
「道あん内をしよう」　【本時】
◎ 道案内で大切なことを選び，相手に分かるように順序よく話し，大事なことに気をつけて聞く。
○大事なこと(大切な言葉の話し方・速さ・間の取り方)が，正確に伝わる話し方が，練習によって分かる。

第３学年及び第４学年　「話すこと・聞くこと」
相手や目的に応じ，調べたことなどについて，**筋道を立てて話す**ことや，**話の中心に気をつけて聞く**ことができるようにするとともに，**進んで話し合おうとする態度**を養う。

【第４学年】

11月　「電話で約束」
○電話を使うときの話し方，聞き方で大切なことを理解し，生活に役立てる。

他教科との関連

朝の会・帰りの会
○会の進行における相互伝達

学級活動
○学級の諸問題について進んで話し合おうという態度を養う。

児童会活動
○自治的な活動の中で，意見を交流しあい，よりよい学校生活を築こうとする。

総合的な学習の時間
○ 自らの課題について，様々な方法で，調査したり，報告したりする。
・インタビュー
・電話の受け答え

朝の会・帰りの会
学級活動
児童会活動
各教科
総合的な学習の時間

(4) 児童の実態(９名)

項　目		児童の回等								
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
①道を聞かれたことがある。		○	○	○	○	▲	○	▲	○	○
②だれに道案内をしたか。	知らない大人(4)		○	○	○					○

(複数回答)	地域の大人(3)			○	○					○
	学級の友だち(2)	○							○	
	上級生(1)　※下級生は０						○			
③道案内する時に大切なこと（３つ）	○出発地と目的地の確認（6）	○	○		○	○			○	○
	○目印及び曲がる時の方向(9)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○　進む順番通りに(4)	○		○		○				○
	▲大きな声で話す(5)		▲				▲	▲	▲	
	▲いつも使っている道(4)			▲	▲		▲	▲		
④道を尋ねたことがある		○	○	○	○	○	○	▲	○	○
⑤(④ではいと答えた人のみ)説明が分かりやすかったか		▲	○	▲	○	○	▲	／	○	▲
⑥分かりやすかった理由 ○ちゃんとはきはきと教えてくれたから。 ○どこからどこまで行くのか確かめてくれた。										
⑦分かりにくかった理由 ○曲がり角でどちらにいったらいいか分からなかった。 ○言うのが速くて，聞き取れなかった。										
⑧土地をよく知らない大人への学校から八重の里までの道案内【記述式】	関心・意欲・態度	○	○	○	◎	○	◎	○	○	◎
	目的地と出発地の確認	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○
	進む順番（コース確定）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	目印	▲	▲	◎	▲	▲	▲	▲	○	▲
	曲がる時の方向	◎	▲	◎	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	言葉遣い	○	○	○	▲	○	○	○	○	○
	案内の明確さ	▲	▲	○	▲	▲	○	▲	▲	▲

<考察>

(1) 意識調査について

本学級の児童は，自分の考えや思いを相手に伝えたいという気持ちが強く，発表会などで積極的に発言している。様々な方法で自分の考えを伝えようとする反面，自分の思いや考えを友だちが理解しているか，どう思っているのか，あまり深く考えない傾向にある。

アンケートによると，児童は友達同士で遊ぶ時，友人宅までの道を教えあい，地域の人から場所を聞かれることが多い。また，観光客に道案内をしたこともあり，多種多様な人に道案内をする機会がある。このことから，特定の人だけでなく，話す人に応じた対応が必要である。また，前述したように相手意識が薄いので，話す相手を意識するために，１対１で道案内の練習をし，聞いている相手を意識しながら話す必要性を実感させたい。

次に，人に道を尋ねたことが多いことも分かった。しかし，半分以上の児童がその道案内が分かりにくかったと答えている。理由としては，曲がる時の方向，相手の説明が早く聞き取れなかったことが挙げられた。このような体験から，話し手に分からなかったところを質問し，相手に分かりやすく話すための手立てが必要であることを感じさせたい。

(2) テスト結果から(全９名)

テストは，地図を見ながら，花尾小学校から八重の里までの道案内をできるだけ詳しく道案内をさせた。道案内の相手は，土地をよく知らない大人の人とした。記述式とした。

問題　あなたは今，花尾小学校前にいます。そこへ八重の里へ観光にきた大人の人が道に迷い，あなたに道案内を頼んできました。その大人の方は，花尾校区をよく知りません。黒板の地図を見ながら，できるだけ詳しく道案内をしてあげましょう。

アンケートの結果から，本学級の児童は，土地をよく知らない人から道案内を頼まれることが多いことが分かっている。その際に，目印となる建物やものを，相手に分かってほしいと思うあまり，目印がたくさん出しすぎ，どこで曲がるのか分かりにくいものもあった。また，出発地点と目的地の確認はすることができるが，どこでどの方向に曲がるか説明し忘れたり，地図を見ながら今自分がどこを説明しているのか確認できなかったりすることが分かった。

道案内で大切なことは，出発地と目的地の確認，目印になるものや曲がる時の方向を言うこと，道順が分かるように説明することである。目印が大事であると分かっているが，道案内で必要な目印だけを選択することができず，聞き手に混乱を生じさせていることが分かった。また，目印に注意が向いたのか，どの方向に曲がるか書き忘れているのも目立った。たくさんある情報から必要な情報だけを選ばせることも実感させたい。さらに，道順が分かるように説明することの重要性に気づけなかった。声の大きさの方が重要であると考えているようなので，授業や発表会の発表と道案内では目的によって声のだし方，演出の仕方が変わってくることに気づかせたい。

これらのことから，曲がり角で曲がる時に目印となる建物やものを使うこと，まただれにでも分かりやすいものを目印となることに気づかせ，学習を深めていきたい。

4　単元の目標

①道案内をする時の話し方や聞き方で大切なことを理解し，生活に役立てようとする。【関心・意欲・態度】
②道案内で大切なことを選び，相手に分かるように順序よく話すことができる。【話すこと・聞くことア】
③大切なことに気をつけて聞くことができる。【話すこと・聞くことイ】
④大事なことが，正確に伝わる話し方が，練習によって分かる。【言語事項ア】

5　評価規準

①伝える情報を選び，筋道を立てて，相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。
②道案内で大切な部分を気をつけて聞き，質問や感想をまとめることができる。

6　指導に当たって

(1) つかむ・見通す過程では，本単元のねらいと流れを理解させ，道案内の練習をすることへの意欲を高めたい。教科書の地図を使って，森さんの道案内を聞きながら，目的地にたどり着くまでにはどんな情報が足りないのか，地図をたどりながら確認させたい。また，歩いていく順序が分かるように話したいという目的意識を高めたい。

(2) 考える過程では，実際の道案内のときと同じように１対１の場を設定し，相手に分かるように話したり，質問したりできるように場の意識を意識させたい。また，相手に応じて補足をしたり，言葉使いに注意させたりするために相手意識も高めていきたい。

(3) 深める過程では，今までの学習を振り返り，道案内の目的や相手に応じた話し方に気をつけながら，自分や友達の道案内の仕方について相手に応じて分かりやすく説明できていたかを振り返り，自己評価や相互評価をさせたい。

(4) まとめる・生かす過程では，聞き間違いが人と話す中で起こりやすいことに注目させ，道案内に大切なことを自分たちでさらにまとめさせ，日常生活でも実際に使える道案内に生かしていきたい。

7　指導計画(全５時間)

過程	時	学習活動	指導上の留意点	※評価規準◆評価方法 ☆５つの言語意識
つかむ・見通す	1	１．道案内の経験について話し合い，学習の方向を確かめる。 ２．CD の森さんの道案内で説明の足りないところに気づき，花園児童館までの道案内を考える。 ・印をつける ・説明のメモを取る	①　学習計画を知る。 ②　実際に地図をたどりながら聞かせる。 ③　印をつけることで，曲がる場所の目印や方向をはっきり言っていないことに気づかせる。	※森さんの道案内や初めの道案内で分かりにくいこと所に気づくことができる。 ◆はじめての道案内の記述 ☆目的意識
考える	2	３．教科書の地図を使って，相手に応じた道案内をする。 ２人組で，道案内の練習をする。 ・クラスメートに ・２年生に（下級生）	①　教科書の地図を使い，目的地までの道のりを考えさせる。 ②　相手が２年生の場合，どんなことに注意して道案内をすればいいかついて話し合うようにする。	※目的や相手に応じて，聞き手に分かるように道案内ができる。 ※分からないことや聞き逃したところを聞き返すことができる。 ◆２年生への道案内の仕方 ☆場の意識（児童対児童） ☆相手意識（言葉遣い）
考え	3	４．教科書の地図を使って道案内するところを決め，道案内の練習をする。	①　教科書の地図を使い，目印を落とさないように話をすることに注意させ	※相手に応じて，言葉遣いに気をつけながら道案内ができる。 ◆相手に応じた道案内の仕方

る		・大人の人に	る。 ② 大人に道案内をする時は，丁寧な言葉使いに気をつけさせる。	☆相手意識（児童対大人）
深める	4	5．今までの練習をふりかえり様々な人に地図を使って校区内の道案内をする。 【本時】	①どこで会った，どんな人に，どこまでの道案内をするのかをはっきりさせてから，相手に応じた道案内ができるように練習する。	※相手に応じて，言葉遣いなどにも気をつけながら道案内ができる。 ◆評価カード ☆評価意識
まとめる・生かす	5	6．教科書を読み，話したり，聞いたりするときに大切なことを理解する。	① 聞き間違いをした経験や，自分の気持ちが聞いている人に伝わらなかった経験などについて話し合うようにする。 ② CDのさとしさんとおばあさんのやりとりを聞きながら，おばあさん確認しながら聞いていることを確かめさせる。	※相手の様子を確かめながら話したり，話の内容を確かめながら聞いたりすることができる。 ◆道案内に大切なことのまとめ ☆目的意識

8　本時

(1) 目標

① 正確に伝えるために，順序よくキーワードを押さえ，適切な速さや言葉遣いで話すことができる。
【話す･聞くア　言語事項ア(ア)カ(ア)】

②キーワードとなる大事なことを落とさず聞くことができる。【話す・聞くイ】

(2) 評価

評価規準	評価の観点	
	A　十分達成	B　おおむね達成
「道案内で大切なこと」を確認し，ポイントを押さえ，想定した相手に応じた言葉遣いができる。	道順，目印となるものや曲がる方向を押さえ，大人や下級生など想定した相手に応じた言葉遣いができる。	道順，目印となるものや曲がる方向を押させながら，話すことができる。
道案内を頼む人になったつもりで，友達の案内を聞き，迷ったところで尋ね返すことができる。	道案内を頼む人になったつもりで，友だちの案内を聞きながら，迷ったところでたずね返すことができる。	友達の道案内を聞きながら地図をたどり，迷ったところに気づくことができる。

(3)指導に当たって

① つかむ・見通す過程では，今までの教科書の地図と違い，学校近隣の地図を使うことによって，道案内に現実性を持たせ，意欲を高めたい。また，道案内ボックスを用意し，前時まで学習したクラスメート(転校生)，２年生，大人の人への道案内の仕方をふまえて，様々な相手を想定した多用な道案内をさせたい。

② 考える過程では，「道案内で大切なこと」をおさえながら，道を尋ねた人の年齢や様子を思いうかべて，どんな案内がふさわしいか考えさせたい。

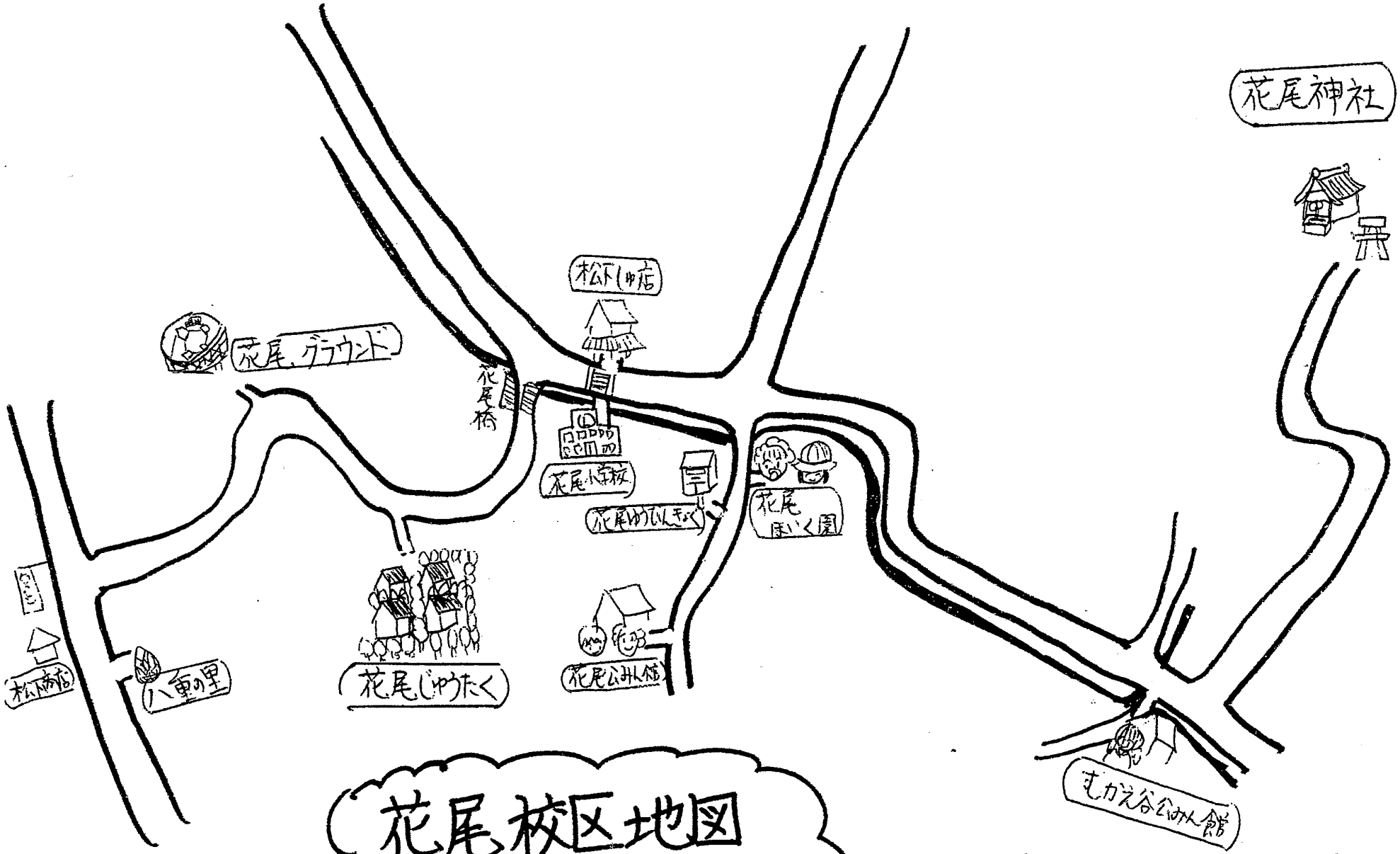
③ 深める過程では，道案内ゲームをし，児童が考えた道案内を発表させる。相手の話を聞くことに集中させたいため，目的地を言わず，児童の案内の仕方に従って，地図を見ながら目的地を探させる。児童の道案内の仕方，言葉遣いに注意して評価したい。また，その案内を聞いて，正解者が多いものは相手の立場になり，相手に分かるように説明できていたことを評価したい。

④ まとめる過程では，自己評価をカードにまとめ，相手に応じながら，ねらいをもって道案内することができたか，自分で確認させたい。また，友達の案内を聞いて，わかりやすかった点，わかりにくかった点，自分の案内とどう違うか比べさせ，道案内の仕方をまとめ，さらに充実したものになるように努めたい。

⑤ 生かす過程では，今回の道案内で友達の案内を聞いているとき，聞き取りにくい点があったことをふまえさせ，日常会話でも聞き間違いが多いことに気づかせ，次の学習につなげたい。

(3) 実際(4／5)

過程	学習活動	時間	教師の指導上の留意点	※評価基準◆方法 ☆5つの意識
つかむ・見通す	1．前時で学習した道案内の話し方，聞き方について確認する。 **道案内で大切なこと** (話すとき) ・どこからどこまでいくのかを確かめる ・歩いていく順序が分かるように話す。 ・目印になるものや，曲がる時の方向を言う。 (聞くとき) ・分からないところ，聞き逃したところは，質問して確かめる。 2．学習のめあてを立てる。 花尾校区の道案内をしよう。	7	・前時までの学習を振り返り，学習の要点を確認させ，学習の見通しを持たせる。 ・今まで学習したことを振り返れるよう，道案内の大切なポイントや言葉遣いをまとめたカードを児童が見やすい位置に常時，提示しておく。 ・あらかじめ，花尾校区の地図を準備しておく。 ・子どもたちの実生活と近い場面を設定し，意欲を高めさせる。 ・花尾校区の地図を配る。	☆目的意識
考える	3．道案内ボックスで「①だれに」「②どこからどこまで」の道案内をするか，道案内のパートナーにひいてもらう。 だれに道案内するのかな？ 4．1対1で道案内の練習をする。 ・まとめカードで大切なことを確認しながら，話したり，聞いたりする。	13	・実際に道案内のように臨場感を持たせるため，パートナーから課題を出題させる。 ・「道案内で困ったらコーナー」から道案内を考えるヒントを提示する。 ○道案内の情報が不足している児童には，一緒に地図をたどり，目印に印をつけさせる。 ○相手に応じた適切な言葉遣いができていない児童には，発表話型や発表ポイントに注目させる。 ○友だちの道案内への質問が分からない児童には，道案内を聞きながら地図をたどらせ，迷ったところで質問させるようにする。	☆場の意識 ☆相手意識 ※道案内を頼む人になったつもりで，友達の案内を聞き，迷ったところで聞き返すことができる。 ◆地図への書き込み
深める	5．目的地かどこかを当てる道案内ゲームをする。 1つ目の角を右に曲がって どこを曲がるの？	15	・子どもたちの聞く意欲を高めるために道案内をする児童以外は，全員解答者にさせる。 ・友達の道案内を聞きながら，分からないところがあれば，質問ができることを伝える。	※道案内で大切なことを押さえ，想定した相手に応じた言葉遣いができているかどうか。 ◆発表の仕方，発表内容
まとめる・生かす	6．自分や友達の道案内の反省をする。 (1) 自己評価 (2) 相互評価 (3) 教師のまとめ 7．次時の予告をする。 ・聞き間違いについて	10	・自己評価をさせ，自分が大切なポイントを意識して話せたか確認させる。 ・友達の道案内を聞きながら，わかりやすかった点，分かりにくかった点を評価カードにまとめる。 ・人の話を聞くとき，道案内をする時，たびたび聞き間違いが起こっていることを今までの経験から振り返らせる。	◆評価カード (重要ポイント,言葉遣い,質問など) ☆評価意識 ☆目的意識



花尾校区地図
～学校しゅうへん～

名前（　　）

国語の単元「道案内をしよう」で，地域の簡単な地図を使用した。本単元では，順序が分かるように話したり，聞いたりする力を高めるために，道案内の仕方，聞き方を学んでいくことにした。初めに教科書の地図を使い，道案内の練習をした後，校区地図を使用した。日頃，地域以外の人から道案内を頼まれることがあるので，実際に校区地図を使って，道案内をした。

校区地図を使って

<成果>

道案内の仕上げに校区地図を使うことで，子どもの意欲が高まった。
校区地図を使うことで，児童がより実際的に道案内をすることができた。
道案内する場所や施設は，地域の観光スポットであることを再確認できた。
道案内することで，目印になる建物，バス停留所の名前を知ることができた。
活動を通して，校区内のことを知り，また他の地域の人に地域のことを教えたいという願いがでてきた。